

2020年11月12日

島根中央信用金庫 2020年度上半期の業績について

《2020年度上半期 業績の概要》

単位：百万円、%

	2020年9月末	2019年9月末	増減額	増減率
預金残高	239,950	219,095	20,854	9.51
貸出金残高	135,340	122,218	13,121	10.73
経常収益	2,432	1,948	484	24.84
経常利益	557	453	103	22.74
当期純利益	523	429	93	21.63
コア業務純益 (うち投信中途解約益除く)	665 (400)	361 (305)	303 (95)	84.14 (31.07)
自己資本比率	9.29	8.69		0.60

※ 単位未満切り捨て

島根中央信用金庫(島根県出雲市今市町 理事長 福間均)の2020年4～9月の業績は、売上高にあたる経常収益は前期比24.84%増の24億3200万円、経常利益は22.74%増の5億5700万円、当期純利益は21.63%増の5億2300万円で、4期連続の増収、2期連続の増益となりました。経常収益、経常利益及び当期純利益は過去最高を更新しました。

○ 9月末の預金残高は、コロナ禍のなかでの企業の手元資金確保の動きや個人の新型コロナ特別定額給付金の一時滞留等もあり9.51%増の239,950百万円と大幅に増加しました。貸出金についても、新型コロナウイルス感染症拡大で影響を受けている事業者等への資金繰り支援に積極的に取り組んだことにより10.73%増の135,340百万円となりました。その結果、いずれも過去最高残高となりました。

○ 長引くマイナス金利により収益環境は厳しさを増しておりますが、シェアアップの取組みなど持続可能なビジネスモデルの構築を進めてきた結果、本業の収益力を示すコア業務純益は84.14%増の665百万円となりました。投資信託の中途解約益を除くコア業務純益についても6期連続増益の400百万円となり、いずれも過去最高益となりました。

また、コロナ禍による先行きの企業業績の悪化等に備え予防的に3億円の引当てを実施しましたが、経常利益、当期純利益とも過去最高益を更新しました。

○ 自己資本比率は、貸出金や有価証券の増加によりリスクアセット(分母)が増加したものの、利益確保による自己資本(分子)の蓄積により0.6%上昇の9.29%となりました。なお、国内基準4%の2倍以上の水準を維持しており、健全性に問題はありません。

以上

本件に対するお問い合わせ先

経営企画部 竹下 Tel (0853)20-1000(代表)